



# 日本の林業遺産を知ろう



甲賀市甲南ふれあいの館の展示

## 甲賀の前挽鋸製造および流通に関する資料群

一般社団法人 日本森林学会 林業遺産選定委員長 京都大学 深町加津枝

**滋**

賀県南部の甲賀地域には豊かな森林資源があり、特に杣川流域の杣谷と大戸川流域の信楽谷は大和・山城に隣接し、古代から用材の供給地となっています。杣師、木挽により伐採、製材されたヒノキやスギの大径の天然木は、東大寺や石山寺の造営にも利用されました。この頃の木挽による製材は、楔くさびや鑿のこで木を叩き割る打割製材であり、木目が通って割りやすいスギやヒノキ、クリが利用されてきました。室町時代になると朝鮮半島より二人で使用する製材用の縦挽き鋸、大鋸が導入されて柱や板の製材が可能になりました。安土桃山時代は、日本独自に工夫を重ねた一人挽きの製材用鋸、前挽鋸が主流となり、製材工程が効率化されました。そして、割裂性が悪いため利用されなかったアカマツやケヤキなども構造材として利用できるようになり、日本建築の様式に影響を与えました。

**前**

挽鋸の生産の中心は京都でしたが、江戸中期（1752年頃）に製造技術を持った天王寺屋九右衛門（福本家の先祖）が京都から地元・甲賀に戻り、前挽鋸鍛冶を開始しました。その後、甲賀前挽鋸が流通し、甲賀地域は前挽鋸製造の中